

日本スポーツ社会学会会報

Vol. 65



＝目次＝

1. 日本スポーツ社会学会第25回大会のご案内とお誘い … 2
 2. 研究委員会からの報告 … 5
 3. 編集委員会からのお知らせ … 6
 4. 電子ジャーナル委員会からのお知らせ … 7
 5. 国際交流委員会からのお知らせ … 7
 6. 25周年記念誌編集委員会からのお知らせ … 8
 7. 事務局からのお知らせ … 8
- 編集後記 … 8

日本スポーツ社会学会
Japan Society of Sport Sociology
広報委員会 2016年3月

1. 日本スポーツ社会学会第25回大会のご案内とお誘い

第25回学会大会実行委員長
坂上 康博（一橋大学）

2016年3月20日（日）・21日（月）の両日にわたって、一橋大学国立（くにたち）キャンパスにて、第25回日本スポーツ社会学会が開催されます。

研究委員会シンポジウム、学生フォーラム、ランチョンミーティング、一般発表のほか、大会実行委員会と一橋大学大学院社会学研究科との共同企画も実施いたします。

ぜひとも多くの会員のみなさんにお越しいただきますよう、大会実行委員会一同、心よりお待ちしております。

〈大会プログラム〉

会期 2016年3月20日（日）～21日（月）

会場 一橋大学 国立キャンパス（東京都国立市中2-1）

交通 中央線国立駅（南口）下車、徒歩10分

*JR東京駅から「快速」で約55分、JR新宿駅から約40分

（「特別快速」をご利用の場合、国分寺駅で「快速」にお乗り換え下さい）

スケジュール

3月20日（日）	3月21日（月）
10:00～12:00 ・理事会 ・大会実行委員会/一橋大学大学院社会学研究科合同企画① テーマセッション「オリンピックと社会正義」 12:00～ 受付	9:00～12:00 一般発表 12:10～12:55 国際交流委員会 ランチョンミーティング
13:00～14:30 学生フォーラム 14:30～17:00 一般発表 17:00～18:00 総会 18:00～ 懇親会	13:00～14:30 ・大会実行委員会/一橋大学大学院社会学研究科合同企画②特別講演 14:30～17:30 研究委員会シンポジウム

〈大会実行委員会・一橋大学大学院社会学研究科合同企画①〉

3月20日 10:00～12:00 / 東2号館2階2201番教室

テーマセッション:「オリンピックと社会正義」

【登壇者】

鈴木直文（一橋大学）

「オリンピックが開催都市にもたらすもの—『祝賀資本主義』を中心に—」

中村英仁（一橋大学）

「レガシー活用の創発的過程とその成果:長野オリンピック後18年の軌跡」

Grace Gonzalez（同志社大学）

「ロンドン2012から東京2020へ:策移転とオリンピック都市における社会空間ターゲティング」

東原文郎（札幌大学）

「成熟都市への飛躍?!:札幌における2026冬季オリンピック・パラリンピック招致活動の実際と展

望」

町村敬志（一橋大学）

「オリンピックと開発主義」

【概要】

オリンピックは社会正義を促すか——。オリンピックは開催都市の様相を大きく変える。巨額の「経済波及効果」が謳われ、都市の開発が一気に進む。それが都市の周縁に置かれた存在を疎外し自然環境や文化を破壊したとしても、人々の悲鳴はスペクタクルな祝祭にかき消される。しかも約束された経済効果が事後にもたらされることはなく、競技場や関連インフラの建設コストの膨張による多大な負債と不採算施設の維持管理費が自治体の財政を圧迫する。こうした負の遺産への自覚から生まれた「レガシー」の言説は、むしろ開催主体に逃げ道を与え、イベントが生み出す不正義を覆い隠す。我々はこの負の連鎖から脱し、社会正義を促す装置としてオリンピックを生まれ変わらせることができるだろうか。理論と実証の両面から、この問いに迫る。

〈学生フォーラム〉

3月20日 13:00～14:30 / 東2号館2階 2201番教室

「『気づかせる』指導とはどういうものか——コーチングの社会学に向けて——」

【登壇者】 平尾剛（神戸親和女子大学） 迫俊道（大阪商業大学）

【指定討論者】 倉島哲（関西学院大学）

【司会】 小丸超（龍谷大学）

【趣旨】

2012年、スポーツ界は2つの体罰問題に揺れた。桜ノ宮高校バスケットボール部で起きた体罰事件と女子柔道強化選手による暴力告発問題である。こうした事件を受けて、多くの識者は体罰を断じ、またスポーツ界は体罰の一掃をめざす取り組みを始めた。そして、時が経ち、人々の受けた衝撃は少し薄らいできているように思われる。しかし、スポーツ関係者の中で「スポーツ界から体罰を一掃できる」と本気で信じる者は、実際、少ないのではないだろうか。というのも、スポーツ——特に競技スポーツ——は根本的に成果主義であり、指導者は常に「選手の諸能力を、ある時期までに、ある一定の水準にまで上昇させなければならない」という圧力にさらされているからである。

ところで、スポーツにおける指導は、その対象が主に「身体」であるという点で特殊である。身体（の動きや感覚）は1人ひとり異なっており、また、経験上、いわゆる「コツをつかむ」といった「体験」はふっと訪れるものである。つまり、本当の意味で「身についた」と言うためには、選手の選手自身による「体験」をどうしても必要とするのである。「体験」はふっと自発的に生じてくるものであって、強制的に発生させることはできない。しかし、競技スポーツの成果主義は、指導者が選手に生じる「体験」を「待つ」ことなど、許してはくれないのである。

スポーツの指導者は明らかに難しい状況に置かれている。すなわち、成果主義の圧力と身体教育の特殊性のあいだで引き裂かれているのだ。こうしたジレンマは、あるいは体罰のような暴力によって一時的に解決できるのかもしれない。しかし他の解決策もある。それは、「体験」を誘発する指導、すなわち「気づかせる」指導を大真面目に考えることである。実際、コーチングの教科書ではこうした指導の大切さが説かれている。しかし、それはまさに説かれるだけであり、①「気づかせる」指導とはどういうものなのか（＝本質）、そして、②いかにして「気づかせる」ことができるのか（＝方法）といった点について具体的に説明されているわけではないのだ。

今回の関西学生フォーラム企画では、こうした「気づかせる」指導の本質と方法について考えたい。というのは、もしこの点が明確になれば、体罰という方法の不当性が明らかとなり、体罰を減らしてゆく道筋が見えてくる、と考えられるからである。

〈国際交流委員会ランチョンミーティング〉

3月21日 12:10～12:50 / 東2号館2階 2202番教室

「スポーツ社会学の研究と国際学会・国際誌での研究報告についてみんなでワイワイガヤガヤと情報・意見交換しよう」の会

【プレゼンター】 海老島均(成城大学)「国際学会漂流記」

金子史弥(筑波大学)「英語論文作成事始め」

【司会】 松田恵示(東京学芸大学)・清水諭(筑波大学)・後藤貴浩(国士舘大学)

【内容】

日本スポーツ社会学会が設立されて25年が経った。設立時には記念講演に、ジョン・W. Jr. ロイ先生にお話をいただいたり、ここまでに国際大会を3回ほど主催あるいは協力したりもしてきました。また、ISSA(国際スポーツ社会学会)やNASSS(北米スポーツ社会学会)などとの交流や会員の参加、定期的な学会大会でも海外からのスピーカーの招聘や参加者があるなど、日本スポーツ社会学会は、かなり早い段階から国際化し、交流を深めてきた積み重ねがあります。

このような学会の持つDNAを会員間で今一度確認するとともに、昨今の国際学会や研究誌の最新情報や報告事情などの情報・意見交換を行い、学会員の国際的な研究交流の一助となる場を提供することが、本会の趣旨です。

国際学会の動向にお詳しい海老島均先生と国際スポーツ社会学会での受賞もある金子史弥先生から話題をご提供いただき、お昼ご飯を持参いただき食べながらの意見や情報の交換会を行いたいと思います。多くの学会員の方のご参加をお待ちしております。

〈大会実行委員会・一橋大学大学院社会学研究科合同企画②特別講演〉

3月21日 13:00～14:30 / 東2号館3階 2301番教室

【登壇者】

Aaron L. Miller, PhD "College Sports in America: Thoughts from An Educational Perspective"

【コーディネーター】 中澤篤史(一橋大学)

【Abstract】

At their "big-time" level, American college sports are big business entertainment pursuits first, and higher education and tools for character building second. College sports are thus a main means of marketing the modern university, and much less about molding young minds.

As an educational anthropologist of Japan and the US, I will argue that the educational role of college sports within American higher education must be rekindled.

Based on long-term fieldwork research with college basketball teams in both Japan and the US, I will briefly trace the history of the idea of education in modern sports to its British roots, before exploring the basic nature of its American and Japanese branches. I will then show how the prioritization of commercialism in American college sports, which is illustrated by the widespread expression "buying in".

"Buying in" starkly with maintenance of tradition and moral education in Japanese college sports, which is symbolized by the widespread expression, "Bushido".

Despite these differences, Japanese and Americans share a great deal in their cultures of college sport: a seriousness and professional approach to their sports practice, a determined and consistent work ethic, the prioritization of teamwork above all, and the dire need to win.

These shared features underscore how sports are symbols used to communicate the triumphalist ideologies and postindustrial power of modern nations.

〈研究委員会シンポジウム〉

3月21日 14:30～17:30 / 東2号館2階 2201番教室

「スポーツと視覚」

【登壇者】

Larissa Schindler (University of Mainz)

“Vis-ability in Martial Arts: How to learn seeing what is being displayed”

鷺谷洋輔 (トロント大学)

「身体実践をめぐるリアリティの再編成—フィルムエスノグラフィー—」

磯直樹 (大阪大学)

「パリ郊外の柔道場のエスノグラフィとビジュアル調査法」

【コメンテーター】リー・トンプソン (早稲田大学)

【通訳】倉島哲 (関西学院大学)

【司会】石岡丈昇 (北海道大学)

【ねらい】

研究委員会では、今年度より「スポーツと視覚」を共通テーマに探究をおこなうことにしました。社会学的研究の醍醐味のひとつは「見えないものを見えるようにする」記述を可能にすることだと思います。スポーツの場面では、同じプレーを見ていても、スポーツ歴や各種体験の有無によって、見えているものが異なっていることがよくあります。こうした視覚や視角の開放性は、それ自体、社会学的考察の対象として位置づけることが可能でしょう。また、昨今では、デジタルカメラやスマートフォンなどのデバイスが急速に発展し、そうしたデバイスが私たちの経験や知識を再帰的に構成している面も興味深いです。

今回のシンポジウムでは、「視覚」という観点からいかなるスポーツ社会学の問題設定を練り上げることができるのかを、三名の気鋭の研究者の報告を踏まえて考えます。三名ともマーシャル・アーツを対象としており、その点もまた「スポーツと視覚」というテーマの固有性が示されているように思います。当日はぜひご参集ください。(石岡丈昇 / 北海道大学)



2. 研究委員会からの報告

1) 第2回関西学生フォーラム

日時：2016年1月10日(日) 14:00～17:00

会場：龍谷大学セミナーハウス「ともいき荘」

内容：①個人研究報告会(14:00～15:00)

・竹村直樹(龍谷大学)

「高校野球と連帯責任—歴史社会学からの一考察—」

②勉強会(15:00～17:00)

・趣旨説明

・浜田雄介(九州共立大学)

課題本：迫俊道、2010、『芸道におけるフロー体験』、溪水社。

・小丸超(龍谷大学)

課題本：平尾剛、2014、『近くて遠いこの身体』、ミシマ社。

*勉強会では、担当者が課題本をもとに話題を提供し、自由に活発な議論を展開した。

③会議、懇親会（17：00～）

2) 第2回研究例会

日時：2016年1月24（日）14:00～17:00

場所：早稲田大学 東伏見キャンパス

内容：提供されたビデオデータを題材にデータセッションを行った。

話題提供者：海老田大五朗（新潟青陵大学）「データセッションに何ができるか」

リー・トンプソン（早稲田大学）「大相撲のテレビ中継と vis-ability」

文献：Heath, C. & Hindmarsh, J. & Luff, P. 2010. Video in Qualitative Research. Sage Publications.

3) 第2回関東学生フォーラム

日時：2016年2月14日（日）14:00～17:00

場所：東京理科大学神楽坂キャンパス5号館

内容：個人研究発表

・種谷大輝（立教大学大学院）

「大学運動部における『補欠』のアンビバレンスに関する基礎的研究」

・村本宗太郎（立教大学大学院）

「学校運動部における体罰の発生要因に関する研究」

フォーラム後は、懇親会が開催された。

研究委員会委員長：リー・トンプソン（早稲田大学）



3. 編集委員会からのお知らせ

<J-Stage 掲載に伴う 2016 年 3 月以降の論文投稿方式の変更について>

先の総会で承認されましたように、本学会の毎年の成果物は従来の紙媒体による『スポーツ社会学研究』とともに J-Stage にも掲載していくこととなります。

これに伴い、投稿は既存の年二回受付から常時受付に変更されます。従いまして従来の3月31日と9月30日の投稿締切は廃止となり、2016年3月31日以降、随時投稿できるようになります。投稿はメールにて投稿専用のアドレスに送ることとなります（原則として従来の郵送方式では行いません）。また付随して投稿様式の一部も変更が予定されています。

この新方式は2016年3月の理事会、総会承認を経て2016年3月31日より施行される予定です。次号投稿を予定されております方は、総会終了後直ちに学会ホームページに掲載いたします「投稿に関する最新情報」および「研究機関誌の発行に関する規定」をご覧ください。なお、投稿ジャンル、執筆要項等、基本となる事項は従来通りですので、現在の様式で執筆を行っておいてください。

なお、次号24巻第2号（紙媒体）での掲載を希望されます方は、査読の期間がありますので、2016年4月初めには投稿されるようお願いいたします。

この件につきましてご質問等ございましたら、事務局経由で編集委員会までおたずねください。

編集委員長 山下高行（立命館大学）



4. 電子ジャーナル委員会からのお知らせ

前号（第 64 号）で報告しましたように、電子ジャーナル委員会では 2016 年第 24 巻第 1 号以降、学会誌『スポーツ社会学研究』を電子ジャーナル化し、総合学術電子ジャーナルサイト J-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp>) にて公開するよう準備を進めています。

J-Stage からは 1 月 29 日付けで掲載誌に認定されましたことを報告いたします。投稿論文は第 24 巻第 2 号掲載分から J-Stage で早期公開を行う予定で、9 月の学会誌刊行前に Web 上で読んでいただくことが可能になります。学会誌刊行後は、本公開に切り替え、引き続き Web 上で公開いたします。特集論文は 1 年を経過した後に掲載されることとなります。早期公開については、理事会の承認を得られましたので、3 月の学会大会総会で承認をしていただく運びとなります。

また、2009 年以降の既刊誌の電子ジャーナル化につきましても 4 月以降順次進めていく予定です。現在 2008 年までの論文はこちらでお読みいただくことが可能ですが (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjsss1993/-char/ja/>)、以後の誌面もこちらで公開いたします。公開が完了次第、HP・会報を通じてお知らせいたします。

なお、総会でご報告いたしますが、現在本委員会では新たに「電子ジャーナル発行の規程」と「電子ジャーナル委員会規程」の整備を行っています。例えば、早期公開の導入にともない、ページ数の異なる論文が Web 上にアップされることとなりますので（早期公開論文と本公開論文、本文については同じもの）、DOI (Digital Object Identifier) という識別子を使って管理いたします。このため、論文表記の方法に変更が生じますので、編集委員会が定める『スポーツ社会学研究』発行に関する規定もあわせて改訂し、HP や会報を通じてお知らせすることにいたします。詳細につきましては、そちらをご覧ください。

電子化の導入で、学会内外からの論文へのアクセスや利用度が高まることが予想されます。これを機に、研究のますますの進展が図られるように環境を整備して参ります。

電子ジャーナル委員長 石坂友司（奈良女子大学）



5. 国際交流委員会からのお知らせ

国際交流委員会では、第 25 回学会大会の 2 日目に、お昼ご飯を持ち寄りながら交流する「ランチョン・ミーティング」を開催いたします。みなさま、ぜひ一橋大学のある国立市には美味しいお店が多いので有名ですので、お昼ご飯を買ってきていただいて、そのままランチョン・ミーティングにお集まりください。多くの皆様にお会いできることを楽しみにしています。

国際交流委員会主催『ランチョン・ミーティング』

「スポーツ社会学の研究と国際学会・国際誌での研究報告について

みんなでワイワイガヤガヤと情報・意見交換しよう」の会

日時：平成 28 年 3 月 21 日(月)12:10～12:50

場所：東 2 号館 2 階 2202 番教室

国際交流委員長 松田恵示(東京学芸大学)



6. 25周年記念誌編集委員会からのお知らせ

かねてより会員の皆様にご協力いただいております「創立25周年記念誌」の編集が、年度内の刊行を予定していた当初の計画より、少し遅れて進んでおります。現在は、ようやく資料や記録をほぼ整え、刊行に向けての最終的な段階に入っております。具体的な進捗状況は追ってお知らせいたしますが、夏までには会員の皆様のお手元に届く予定となっております。いろいろとお手を煩わせるときもありますが、引き続き、お力添えいただけますように、どうぞよろしくお願いいたします。

記念誌編集委員長 松田恵示(東京学芸大学)



7. 事務局からのお知らせ

○会員の方で異動等で連絡先・住所等の変更がありましたら、速やかに事務局までご連絡をお願いいたします。 jsssjimukyoku@gmail.com

事務局長 坂なつこ (一橋大学)



編集後記

第25回目の学会大会が一週間後に迫りました。今大会では大会実行委員会と会場校である一橋大学大学院社会学研究科との合同企画が2つ、研究委員会企画が1つ、若手会員企画が1つ、国際交流委員会企画が1つ、そして29題の一般発表が行われます。合同企画は一橋大の研究者を中心に構成され、時流に乗ったテーマを取り上げています。若手会員企画は「気づかせる」をキーワードとする指導に切り込んでおり、その背景には今や人々の意識から薄らぎつつある体罰問題が見えてきます。国際交流委員会の企画はこれまでにない趣を呈しており興味深いです。

25年という時間は、学会にとってどのような時間なのでしょう。会員数の増加、論文の蓄積、理論や方法論の発展、社会の認知度や社会への貢献の高まりなど、四半世紀という時間はさまざまな評価基準で評価され得ます。学会の本質は新たな知見の生産にあるのかもしれませんが、将来の方向性を探るためにも、来た道を振り返る時期が必要なのかもしれません。「創立25周年記念誌」はそうした役割を果たしてくれそうです。

総会後には論文の投稿方法が変更されますし、年度が明ければ刊行論文のJ-Stage掲載も再開されます。そうした情報を会員メーリングリストと学会ホームページでお伝えしますので、注意深くお読みください。
(高峰修/明治大学)

- | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>◆ 学会への連絡、入退会、住所・所属・メール等の変更、会費納入、その他の各種手続き
日本スポーツ社会学会事務局 【事務局長】坂なつこ 【事務局次長】高尾将幸
E-mail: jsssjimukyoku@gmail.com</p> <p>◆ 学会公式ホームページ
日本スポーツ社会学会公式ホームページ
http://www.jsss.jp/</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|